



## デジタル化の世の中、そろばんで育つ

北海道大学工学部 4年 窪田 直純

初めまして、こんにちは。窪田直純といたします。私は現在、北海道大学工学部の4年生で交通関係の勉強をしています。今回私とそろばんについて書く機会をいただきましたので、拙稿ながらご覧ください。

私のそろばん人生は6歳から。ゲームセンターなどの娯楽はなく、学校や外で遊ぶことくらいしかやることがなかった町で育った。遊んでいない時間は教師をしていた祖父の家で読み書きを覚え、掛け算九九表を暗記し、よく遊びよく学ぶ幼少期を過ごした。

幼稚園をもうすぐ卒園するという頃に、友人が何人か通っていたそろばん教室に通い始めた。特段親や友人から誘われたわけではなく、当時から好奇心旺盛だった私の興味本位でのスタートだった。最初は「ちびっこそろばん」という基礎基本のテキストを解き進め、暇な時間はほとんどそろばんを触っていると、あっという間にちびっこそろばんシリーズを網羅していた。幼いながら無意識に努力を継続していた自分には拍手を送りたい。

転機は小学2年生の秋。2回目の参加となったそろばんコンクール苫小牧珠算記録会小学2年の部で優勝し、各学年の賞の中でなぜか一番大きかったトロフィーを手にした。当時は自分や家族含め、1位を取るとは誰も思っておらず、思いがけない本番での強さを発揮した。それからはコンクールで1位を取ることを目標に毎日そろばんに触れる生活をしていた。順調に級位、段位を取得し続け、そろばんコンクールでは中学3年まで1位を譲らなかった。高校生から地元を離れることを決めていたので、これを機に9年間のそろばんと

の生活から離れることとなった。

と、私のそろばん人生について語るのはここまでにして、大学4年生になった今、幼少期からそろばんをやっていてよかったと思ったことを述べよう。

第一は、迅速な計算力が身についたことだ。音楽をやっている人の「絶対音感」のようなもので、そろばんを練習していくと自然と頭の中にそろばんが出現する。この「脳内そろばん」のおかげで日常生活の簡単な計算（例えば、○%引きの商品はいくらになるか、合計予算はどれくらいかなどの主にお金の計算）は瞬時にこなせるし、大学入学共通テストの数学は暗算でできる問題も多く、他の受験生よりも有利に進めることができた。おかげで会計係やお店の予約、勘定を任せられることは多くなったが、自分の計算が1番信用できるのでこれは良しとしよう。

第二は、情報処理能力の向上だ。単なる情報処理だけでなく、これには集中力や観察力も含まれると思うが、「どの問題から解くのがいいか」「あと何分で何問解くか」などを考えるうちに問題を解き進めることで、自然と脳内で創意工夫がなされる。これが情報処理能力を向上させる要因の一つだと考える。社会での情報処理能力は仕事や勉強を円滑に進めるうえで最も重要で（自分自身まだ社会人とは言えないが、塾講師のアルバイトをしても感じる）、処理能力が高い人は今自分が何をすべきか、最優先事項はどれか、周りの人達は何をしていて自分がなにを求められているかを感じ取り、誰かに指示されなくても最善の行

動をとることができる。この点で最善の選択を取る意識や迅速な行動ができるようになると感じる。

第三には、記憶力の向上があげられる。暗算や読上算では瞬間記憶力が求められるのは明確で、そろばんに触れることで長期的な記憶力も向上すると考える。先ほども述べた「脳内そろばん」が出現することにより、右脳の働きが促進され記憶力が向上する。

記憶力に関しては、育った環境や他の学習習慣の影響も当然ある。私はその中でもそろばんのおかげで記憶力が育ったと感じる。

以上の三点がそろばんを続けることの効力だ。

自分も未熟な人間ながら、そろばんの効果は目に見えて感じる。この小稿を読んだ人たちは是非そろばんを続けて地道に努力し、まだ触れたことのない興味がある人は始めてみてはどうだろうか。何歳でも遅くはない。ちょっとした気晴らし、暇つぶし、頭の体操にはもってこいだと思う。

最後に、9年間送り迎えをしてくれて、幼いころからそろばんを身近に置いてくれた両親、熱心に優しくご教授くださり遠征にも連れてってくれた先生には感謝したい。

今後そろばんに触れる人が増え、そろばんに出会えてよかったと思える人がたくさん生まれることを願う。